

第7回 健康講座

農業者が抱く放射線に対する不安を払拭するため、JA そうま及び除染情報プラザの協力を得て、稲作農家を対象として健康講座を実施しました。

1 開催日時 平成27年3月17日(火)

2 開催場所 JA そうま原町総合支店

3 参加者 79名

4 講師 東京工業大学 放射線総合センター 助教 富田悟 氏

5 講演テーマ

放射線の基礎

6 講演の内容

- ・放射性セシウムは、自然界に存在せず放射線を1回出すとバリウムに変化する。
- ・放射線とは、放射性物質が別の物質に変化するとき、その中から飛び出してくる粒や光のようなものである。
- ・現在、放射性セシウムは、「土の中にある粘土の粒子に捕まって、離れることができない。」「水に溶けない。」「土とくっついていると、植物の根っこがセシウムを吸えない。」状態となっている。
- ・田畑での作業において土に触れることによる皮膚の被ばく影響は、現在の人が居住できる地域では考えられない。
- ・南相馬市で粉じんによる被ばくの影響を調査したが、測定結果から70年間影響を受けなくても被曝量は $1\ \mu\text{Sv}$ 以下なので心配する必要はないことが分かった。
- ・農作業で注意すべき点は以下のとおり。
 - ①作業中(外出時も含め)、土ボコリがひどくて気になるようであればマスクをしましょう。
 - ②作業後や外から帰ったときには手を洗いましょう。
 - ③放射線の危険性は低くなったので、普通に生活することの大切さに気づいて欲しい。
 - ④心配があるときは、行政や専門家に相談しましょう。
 - ⑤行政が行う被ばく管理サービスを利用しましょう。(ガラスバッチ、ポケット線量計、WBCなど)



放射線の基本的な知識について説明する講師